

I. 2011年度の活動報告と今後の方針

委員長 白瀬 敬一

2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年が経ち東北地方は復興の途上ですが、瓦礫の処理や放射能の除染処理、福島第一原子力発電所の廃炉など難問山積です。また、復興を達成するための経済基盤として日本の“ものづくり”復権が望まれますが、大震災の被害でサプライチェーンの脆弱性が顕在化し、生産システムの管理や運用の見直しが迫られたことから、リスクマネジメントも考慮した持続可能で柔軟な“ものづくり”の実現が求められています。

また、我が国の新成長戦略会議では、グリーン・イノベーションを推進する施策が提示され、①低炭素製品の開発・製造（プロダクト・イノベーション）、②ものづくり工程の低炭素化（プロセス・イノベーション）という我が国の強みを活かして世界をリードするイノベーションに期待が寄せられています。

これまで本専門委員会は、FA（Factory Automation, Flexible Automation）の進化に対してハードウェア、ソフトウェアの両面で貢献をしてきましたが、今後は製造プロセスの省エネ・低炭素化に貢献できるような基礎研究や技術開発も視野に入れながら、活発な活動を展開していきたいと思えます。

2011年度は総会の他に講演会・見学会を4回開催いたしました。

- (1) 神戸大学自然科学系先端融合研究環 精密生産研究重点研究チームとの共催で、神戸大学瀧川記念学術交流会館において「International Symposium on Service Manufacturing Systems」を開催しました。国内外から8件の研究発表が行われました。
- (2) 栗津温泉 喜多八で宿泊研修会、(株)松浦機械製作所で見学会を実施しました。宿泊研修会では参加者による研究紹介を行って、次世代生産システムに求められる研究や技術について討論を行いました。
- (3) システム制御情報学会 SFA 研究分科会等との共催で、大阪大学中ノ島センターにおいて、「グローバル生産が抱える課題とそのマネジメント」と題して講演会を開催しました。グローバル生産のキーファクタである企業間生産マネジメントの連携に関する最新研究や、海外生産を先進的に進めている企業の実例などについて、3件の講演が行われました。

- (4) 住友精密工業(株)滋賀工場において、講演会と見学会を開催しました。航空機用降着装置や航空機部品の加工技術に関する動向をご講演いただくとともに、航空機用降着装置の生産設備を見学しました。

また、本報告書内の研究報告には、“ものづくり”に関わるシステム化技術および固有技術に関する各委員の研究紹介を掲載させていただきました。

最後になりましたが 2012 年度につきましても、なお一層のご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。